

- ▶ 大仙市では、林業従事者の高齢化と担い手不足が課題となっている。
- ▶ このため、林業の担い手の新規確保につなげる取組として、高校生を対象に「スマート林業」をテーマとした意見交換会を開催し、地域の若い世代に林業を認識してもらう機会を創出した。

□ 事業内容

担い手確保のためのフォレストパートナーシップ事業

高校生を対象に、ICTを活用した「スマート林業」をテーマとした意見交換会を実施。現在林業分野で活躍している同校の卒業生を講師として招き、最新のテクノロジーを活用した林業技術や実務経験について語ってもらうとともに、生徒たちとの対話を行った。

1. 講演「秋田の林業とスマート林業について」
2. 先輩フォレスターとのジョイントミーティング

【事業費】66千円（全額譲与税）

※講師謝礼＋チラシ代

【実績】学生110名参加

□ 取組の背景

- 大仙市の就業人口における林業従事者の割合は0.3%と非常に低く、深刻な担い手不足に直面しており、この状況を改善することが急務となっている。
- そのためにも、地域の若い世代に林業を職業の選択肢として認識してもらう必要があった。



（先輩フォレスター）



（高校生への講演）



（配布したチラシ）

□ 工夫・留意した点

- 同じ学校の卒業生を講師として招くことで、生徒たちが親近感を持って話を聞ける環境づくりに配慮した。
- 「スマート林業」という先進的なテーマとすることで、従来の林業のイメージを刷新し、若い世代の興味を引く内容とした。
- 実際の現場で活躍している方々との対話を通じて、林業の具体的なキャリアパスをイメージできるよう構成した。

□ 取組の効果

この取組は、「大仙市豊かな森づくり振興プラン」に基づく施策の一環として実施しており、次の効果が期待される。

- 生徒たちの林業に対する理解と関心の向上
- 最新技術を活用した現代の林業の姿の認知
- 地域の林業における持続可能な担い手確保への貢献
- 林業を通じた地域活性化の可能性の提示

◇基礎データ

①令和6年度譲与額：85,463千円	②私有林人工林面積（※1）：12,910ha	
③林野率（※1）：57.5%	④人口（※2）：77,657人	⑤林業就業者数（※2）：105人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より